

平成30年度決算 予算決算委員会資料 病院事業局

- 1 平成29年度決算 企業会計決算特別委員会の
意見・要望・指摘事項に対する処置状況 …………… 1頁
- 2 平成29年度決算 監査委員の意見に対する回答状況 …… 2頁
- 3 予算決算委員会出席者名簿 …………… 4頁

平成29年度決算 企業会計決算特別委員会の
意見・要望・指摘事項に対する処置状況

意見・要望・指摘事項	処置状況
<p>市民病院の特徴や魅力の情報発信に関して、市内には、市民病院以外にも大きな病院が幾つもあるため、市民病院の得意分野や医療技術に対するPRを積極的に努められたい。</p>	<p>市民病院では、広く市民の皆さんに当院の特徴や魅力を周知するため、まず、当院のホームページについて、平成30年度にリニューアルを行い、閲覧者がより見やすいデザインとするとともに、編集作業を容易にすることでスムーズに情報の更新を行えるようにしたほか、スマートフォンにも対応できるようにしました。</p> <p>ホームページでは、診療科ごとに医師の紹介や特色、実績、対応疾患、特徴的な検査や主な手術などの情報をお伝えし、PR に努めているところであります。</p> <p>また、当院の広報誌である「富山市民病院マガジンきよら」を、年4回発行しており、患者さんや医療関係者を対象に当院の医療の取り組みについて詳細に紹介しております。</p> <p>さらに、まちなか総合ケアセンターで市民病院公開講座「ふれあい健康講座」を毎週月～木曜日に開催しており、当院の医師や看護師などが生活習慣病予防などの講義を行うとともに、年1回、TOYAMA キラリで開催しております「ふれあいセミナー」では、当院の医師などが病気の治療や検査など多彩な内容の講座を行い、多くの市民の皆さんのご参加をいただいているところであります。</p> <p>このほか、市の広報誌である「広報とやま」において、令和元年度より新たに「診察室からお答えします」というコーナーを設け、当院の医師による病気の説明や、健康診断を受診してもらうことの重要性等を掲載し、市民の健康増進に対するニーズに答えているところです。</p> <p>今後も、当院の特徴や魅力の発信を積極的に行い、選ばれる病院づくりに努めてまいりたいと考えております。</p>

平成29年度決算 監査委員の意見に対する回答状況

監査委員の意見	回答状況
<p>(1)経営改善計画について</p> <p>富山市民病院第3期経営改善計画(平成27年度～平成29年度)の最終年度である平成29年度末の各種指標の状況は、紹介・逆紹介率は目標を達成したものの、平均診療単価、病床稼働率、新規入院患者数、救急入院患者数は目標を達成するには至らなかった。</p> <p>平成30年度からスタートした第4期経営改善計画(平成30年度～平成32年度)は、この結果を踏まえ、引き続き富山医療圏における急性期医療を担うために必要な健全経営を持続することを目的に策定されたものである。</p> <p>この目的を実行するための事業計画に基づき、経営指標に係る数値目標及び病床機能等の再編や人材育成などの各種施策が着実に実行されるよう一層努力されたい。</p>	<p>第4期経営改善計画の初年度である平成30年度においては、経常収支の黒字化に向け、職員一丸となって各種施策に取り組みました。</p> <p>質の高い医療の提供を行った結果、診療報酬を算定する基礎となるDPC医療機関係数のうち、急性期病院としての機能を評価する機能評価係数Ⅱが上昇しました。このことにより、入院患者一人あたりの平均単価が前年度より上昇し計画の目標値を達成したほか、地域の医療機関との連携の推進及び救急患者の円滑な受け入れに努めた結果、逆紹介率及び救急入院患者数も、計画で定めた目標を達成しました。</p> <p>一方で、手術件数の伸び悩みなどにより、延べ入院患者数及び新規入院患者数において、目標の達成には至りませんでした。</p> <p>その結果、平成30年度決算においては、平成29年度からは収支の改善が見られるものの、経常収支の黒字化という目標を達成できず、107百万円余りの当年度純損失が発生しました。</p> <p>現在の第4期経営改善計画は市民病院単体の計画となっていることから、今後、富山まちなか病院も含めた計画に修正する予定としており、計画で定める施策を着実に実行してまいります。</p>

様式3

監査委員の意見	回答状況
<p>(2)今後の企業経営について</p> <p>平成 29 年度は、288,589 千円の当年度純損失が計上され、前年度に引き続き、2年連続の赤字となった。</p> <p>また、平成 28 年度と比べ入院・外来患者数が共に減少し、さらには、病床稼働率も年々減少を続けている。</p> <p>このような中、経営に大きな影響を与える定期的な診療報酬の改定に対し、的確かつ迅速な対応が健全な病院事業経営には必須であることから、患者数の確保を図ることや診療科別病棟別における損益状況からの経営分析を活かし、医療スタッフや医療設備の生産性を最大限図り、着実な黒字経営への転換を図られたい。</p>	<p>市民病院としては、地域から求められる医療を確実に提供するためには、安定した病院経営が重要であると考えており、患者数の確保を図り、損益状況を改善することなどを目的として、診療科の責任者に対し、毎年、病院長が個別にヒアリングを行い、病院が求める成果との調整を行った上で、診療科ごとの年間の目標を設定し、各種施策に取り組んでおります。</p> <p>また限りある医療資源の生産性向上のため、平成 30 年度において病棟の配置の見直しを行い、患者及び職員の動線を短くすることで、患者の負担軽減や安全性の確保を図ると共に、人員の適正配置により職員の業務の効率化に取り組みました。今後も、第 4 期経営改善計画で定めた施策を着実に実行することで、健全な病院事業経営に努めてまいります。</p>

予算決算委員会出席者名簿

所 属	出 席 者 名							
	特 別 職		部 長 級		部 次 長 級		課 長 級	
	職	氏 名	職	氏 名	職	氏 名	職	氏 名
病院事業局	病院事業 管理者	石田陽一						
管理部			部 長	古澤富美男				
			理 事	高田英俊				
経営管理課							課 長	井村孝志
							主 幹	竹内 孝
契約出納課							課 長	長森貴弘
医事課							課 長	浦田純一